福島産業人クラブ

マッチング機能 強化

概　要

◇1983年（昭58）4月30日設立　会員数41人
◇事務局所在地 ＝ 福島市太田町8の8、リアルスウィート福島駅前203（日刊工業新聞社福島支局内）
◇電話 ＝ 024・573・6105

新たなビジネス創出へ

学官金と連携強化 福島県の再生促進

福島産業人クラブ（立石吉識会長＝福島製作所相談役）は、1983年4月に設立された。福島県ではいわき市近郊を基盤にいわき産業人クラブも組織されており、情報交換、共催事業の開催など、積極的な連携を図ってきた。主な事業としては知事懇談会や復興シンポジウム、セミナー、企業視察ツアーの開催など多彩な事業を展開している。

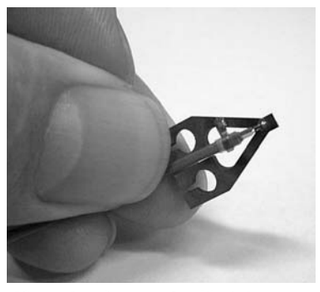
福島県は東日本大震災からの早期復興を目指し、再生可能エネルギー分野と医療機器分野の集積促進を重要プロジェクトに掲げている。手厚い支援制度に加え、関連研究施設の建設など新産業創出や企業誘致に向けた動きを加速させている。福島産業人クラブはこの潮流をとらえて自治体や大学、金融機関との連携を強化し、福島県の再生促進、新たなビジネスの創出にむけた取り組みを強化する。

多彩な溶接技術企業 集積

■超微細精密が強み

福島県には多彩な溶接技術を有する製造業が集積しており、会員にも独自技術を誇る会社が多い。福島熔材工業所（福島市）は超微細精密溶接が強み。この技術は電子部品のプリント基板やフレキシブル基板の接続に使う熱圧着ヒーターチップの製造で活躍する。

熱圧着ヒーターチップは電気が通る超極細ワイヤと、基板の接続に使うタングステン製基材で構成されている。まず直径0・2ミリメートルの2本の超極細ワイヤをモニターで50倍に拡大して溶接する。通常、溶接棒の直径は2ミリメートルから2・4ミリメートルなので、溶接するワイヤがいかに微細かが分かる。1本になった2本のワイヤは溶接されているようには見えないほど繊細だ。渋谷修一社長は「直径1、2ミリメートルのワイヤならば溶接できる会社もあるが、そもそも溶接棒よりも細いワイヤを溶接するという発想すらない」と強調する。



溶接棒よりも細いワイヤを装着する技術は他には真似できない（福島熔材工業所）

次に加工したワイヤをタングステン製基材に溶接。タングステンはレアメタルの一種で、ほかの金属の溶接には適していない。熱を加えすぎると、割れてしまうため扱いが非常に難しい。そこでパンの上にバターを塗るように、溶接ポイントに厚さ0・1ミリメートルの合金を薄く塗布する「バタリング」という方法を用いる。特殊な溶接に欠かせない技だが、厚さの加減で完成品の特性を大きく左右してしまう。渋谷社長は「最適な厚さを見極めるには、長年蓄積されたノウハウがものを言う」と明かす。

特殊な技術で完成した熱圧着ヒーターチップは耐久性が従来比8倍で、1個当たりハンダ付け能力は約45万回になった。渋谷社長は「タングステンなどレアメタルへの溶接技術は、当社と米国メーカーぐらいしかできない」と胸を張る。

大型構造物の品質は溶接の出来栄え次第だ…と東開工業の伊藤社長㊨は話す

■分厚い鋼板に対応

福島熔材工業所が超微細精密溶接が得意とするのに対して、東開工業（福島市）は厚さ100ミリメートルという分厚い鋼板の溶接にまで対応できる技を持つ。同社は橋やダムの水門、水圧鉄管、除塵機、鋼構造物などの設計・製作から据え付けまでを一貫して対応する。さまざまな形に加工した鋼板をつなぎ合わせて巨大な構造物を製造する同社にとって、溶接技術は心臓部。その技量が製品の出来栄えを左右する。

■省エネ操業支援

一方、会員企業は技術だけでなく、新製品の開発にも力を入れてきた。北芝電機（福島市）は鋳造工場の省エネ操業を支援する管理システム「FOMS（フォムス）」の販売を開始した。工場内の誘導炉設備や冷却水設備、建屋の照明や空調などの電力、ガス、重油の使用量や稼働状態をエネルギー監視装置で常時把握。その情報を適時、パソコン画面で確認できるようにすることでコスト削減につなげる仕組みだ。価格は基本システムで420万円。中小鋳物工場などに導入を提案し2013年度は3億円の受注を目指す。

ソフトウエアはコンパクトな設計で設備の増設時などの追加にも柔軟に対応する。監視装置と対象設備や機器間の通信には無線電送技術を採用。設置工事の簡略化により工期を短縮し導入コストを抑えた。誘導炉設備のメンテナンスや部品交換の時期を音声で知らせる「保守アシスト機能」や最適な材料の追装時期を知らせ、炉内温度を自動昇温させる「溶解アシスト機能」の追加で省電力、ランニングコストも削減できる。

■高校生体験塾

羽田工業所（福島県郡山市）は地場産業の育成にも熱心で、高校生を対象にした「溶接のしごと体験塾」を21日に開いた。帝京安積高校三年生が集まり、座学で溶接の基礎知識を学んだ後、現場に足を運んで溶接面を手にした。溶接は建築物や道路、船舶、鉄道、車両、製缶、産業機械などモノづくりの多くの現場で不可欠な技術。黒田美和子社長は「溶接はモノづくりの基盤技術であり、重要なプロセスだが、世間の認知度が低い。少しでも溶接の仕事を理解してほしい」とし、この塾を始めた。今後も継続的に塾生を募集し、人材育成に努める考えだ。

平成25年度の主な事業

（平成25年）
◇6月25日　平成25年度役員会
　　平成25年度定時総会・記念講演会・懇親会
◇7月　産学官交流のつどい後援
◇8月　日本産業人クラブ連合会平成25年度定時総会
◇10月　東北4産業人クラブ合同シンポジウム
　　「東北新時代～復興から創造へ（課題）」
◇11月　東北4産業人クラブ主催・広域連携事業
　　モノづくり視察ツアー・交流会（宮城県内企業）
（平成26年）
◇2月　第9回キャンパスベンチャーグランプリ（CVG）表彰式・記念パーティー

特集・挑戦する日本の経営者たち

会長インタビュー

クラブ交流 大型広域連携に

立石 吉識 氏
（福島製作所相談役）

―福島産業人クラブの特色は。

「福島県では当産業人クラブのほか、いわき地域を中心にいわき産業人クラブも組織されている。常に情報交換し、復興シンポジウムや福島県知事・幹部との懇談会を共催するなど連携を図ってきた。毎年11月に開いている『企業視察ツアー』は、当初、福島、いわきの両産業人クラブと新潟産業人クラブとの交流を目的に企画された。だが回を重ねるごとに参加クラブが増えた。昨年の3回目は名古屋、広島などの西日本の産業人クラブも加わり、総勢50人が参加する大型広域連携企画に成長した。全国組織という産業人クラブの特徴を生かし、ビジネスチャンスに直結する貴重な場になっている」

―福島県の産業界を取り巻く環境は変化しています か。

「安倍晋三政権の経済政策『アベノミクス』で円安・株高基調となり、輸出型産業を中心に明るさが見えてきた。しかし、福島県では東日本大震災の影響が大きいこともあり、アベノミクス効果が中小企業まで波及していない。また観光産業の場合、宮城県や岩手県には観光客がかなり戻ってきたと聞くが、福島県は『八重の桜』効果が追い風になった会津若松市を除くと、震災前の水準に回復していない。被災地にはインフラ復旧や除染事業などに大型予算が投入されたが、人件費や建設資材の高騰などの復興に向けた課題も多い。どれだけ地元に還元できるかが重要だ。今後も産学官が一丸になった被災地へのてこ入れが必要だ」

―被災地の再生に向け求められる施策は。

「福島県が重点プロジェクトに掲げる再生可能エネルギー分野と医療分野をいかに集積し、根付かせるかが重要だ。再生可能エネルギー分野では、産業技術総合研究所が郡山市に建設している『福島再生可能エネルギー研究開発拠点』や、10月にいわき沖で実証試験が始まる『浮体式洋上風力発電』などが地域活性化のけん引役として期待されている。医療分野でも『医療機器開発・安全性評価センター』の整備が決まった。臨床試験の前段階に大型動物で安全性評価する施設は国内初と聞いている。同センターが関連企業の立地を促進し、県内企業の受注拡大につながればと願っている」

―今後の活動方針は。

「福島県では引き続き被災地の早期復興を支援する大型プロジェクトが展開される。このビジネスチャンスを生かし、新規ビジネスの創出、会員企業の参入機会の拡大を図る活動を強化していく。事業の発注者が求める技術や製品などの情報を収集し、会員企業が持つ製品や技術とのマッチングを橋渡しする情報発信基地としての機能も備えていきたい」

確かな技術を　確かな形に
金型、鉄心組立、金属プレス加工、板金組立
キタシバ技研株式会社
KITASHIBA
代表取締役社長　太田　昌弘
〒964-0029 福島県二本松市永田五丁目18番地2
TEL.0243-23-5891㈹　FAX.0243-23-3576㈹
http://www.kitashibagiken.jp/
E-mail : zginfo@kitashiba.toshiba.co.jp

Best Solution Adviser
KMD
KUNIMI MEDIA DEVICE
株式会社国見メディアデバイス
〒969-1771 福島県伊達郡国見町大字山崎字北町田3番地
TEL. 024-529-1522　FAX. 024-529-1533
http://www.kunimi-media.jp/

ISO 9001認証取得
OHSAS 18001認証取得
Fukushima
ISO14001認証取得
甲板機械とグラブバケットの
株式会社 福島製作所
◆舶用甲板機械
◆海底油田開発用アンカーハンドリングウィンチ
◆グラブバケット　◆鋳造品・機械加工
代表取締役社長　藤原　英男
〒960-8054　福島県福島市三河北町9番80号　TEL. 024(534)3146・FAX. 024(533)8318
URL　http://www.fukusei.co.jp

KITASHIBA
電気を元気にする会社
北芝電機株式会社
エネルギーを効率よく活用し
社会をもっと元気にする原動力になる――。
私たちは、福島から世界に向けて
省エネルギー化をさらに進める環境製品を創出し
広く社会の発展に貢献し続けます。
http://www.kitashiba.co.jp
取扱製品
受変電システム・変圧器（電力用、炉用、一般産業用）・環境調和型変圧器（ナタネ油変圧器）・再生可能エネルギーシステム（太陽光、風力、水力発電）
誘導炉・加熱機・監視制御システム・発電機・非常用発電機・自動車用モータ・熱交換システム（冷却器）・省エネ管理システム
本社・工場　〒960-1292　福島市松川町字天王原9番地　TEL 024-537-2121　FAX 024-537-2123
東京本社　〒141-0031　品川区西五反田7丁目24番5号（西五反田102ビル2階）TEL 03-3495-7130　FAX 03-3495-7137